

令和6年度第1回大府市ひきこもり支援地域協議会議事録(要約)

日時 令和6年6月24日(月)午後3時30分から午後5時00分まで

会場 大府市役所 全員協議会室

出席者 (協議会委員)※敬称略

会長 山田武司、副会長 來多泰明、外波祐二、神谷恵美子、大久保みどり、社本このみ
杉原直樹、井戸千尋、大橋房代、南山安澄、山崎あゆみ

欠席者 竹内美喜

(事務局)※所属順

福祉部長 猪飼、福祉総合相談室長 小清水、同主査 山下、佐々木、地域福祉課長 長坂、
子ども未来課長 川出、健康増進課長 北川

学校教育課スクールソーシャルワーカー 山田

教育支援センターレインボーハウス推進員 蟹江

欠席者 学校教育課 指導主事 伊賀

<司会:事務局>

1 市長、副市長挨拶

2 委嘱状交付

事務局)

継続任期のため、机上配置にて交付する。

3 自己紹介

各委員、事務局とも自己紹介

4 議題

<進行:会長>

(1)大府市ひきこもり支援事業について

ア 令和5年度ひきこもり支援事業実績報告(資料No.1-1)

(事務局から資料に沿って説明)

イ 令和6年度ひきこもり支援事業計画(資料No.1-2)

(事務局から資料に沿って説明)

【意見、質疑応答】

委員)

- ・ 昨年度も多くの相談を対応してくれたと思う。特に継続相談が多い中で、ひきこもりの状態に困っている人がいる。30代までの方が多くということだが、一定数壮年期の方もいる。実際、エスコートおおぶを利用している年齢層はどうか。
- ・ エスコートおおぶの利用者年齢層が二極化しているのは、相談室が対応している層と変わらない。40代前後の方と高校行けていない、通信制高校に行っている10代。割合は10代

が多い印象がある。

- ・ ふぁみり～caféに毎月参加している。17年間ひきこもっていたという人から、「友達になって」と言われ、2回ほど会った。ふぁみり～caféでひきこもりであった当事者が、どのように脱出できたのかという話をすることは、今悩んでいる方にとってはとても重要であると話した。彼は介護士で働いていて忙しく最近はこれしていないが、また仕事の都合が会えば来てくれると言ってくれている。知多市の「まな」にも来てくれたことがある。ふぁみり～caféは、いろんな方と出会える場所だと感じている。
- ・ 知多市の居場所「まな」は、第2週土曜日は遊び第4週土曜日は料理をしている。参加者たち発信で献立を決める。以前より活力がある印象。食を通すと、自然にコミュニケーションがとれる。スタッフ及び参加者のグループLINEを作ったことにより、色々と本音が話せるという経験があった。
- ・ 食べるという方法は良い。SNSを使ったコミュニケーションも良いと思う。
- ・ 専門相談の次回予約が3ヶ月後という点が気になるが、常設相談と専門相談で上手くタイアップしてほしい

(2) 参加支援のための意向調査について (資料No.2)

(事務局から資料に沿って説明)

【意見、質疑応答】

委員)

- ・ アンケート数は、おおよその程度の数を想定しているのか。何問くらいの質問を予定しているか。

事務局)

- ・ 対象としてふぁみり～caféのご家族が10数名、常設相談数名、専門相談の実人数昨年40数名、エスコートおおぶの利用者数10名と考えている。ウェブサイトでも掲載して回答を得たいが、数は未定。多くの方に回答いただくことで、当事者の思いを把握できると考える。質問数は少なめに考えている。得意なことや好きなことを聞き出せるような内容にしていきたい。

委員)

- ・ ひきこもりの方は見えないニーズを抱えておられるためアンケートは大切なことだと思う。その後の支援について、自治体主導でその後の対応をしていくのか、ビジョンを教えて欲しい。事業者がやるのであれば、アンケートを作る時にそのあたりも一緒に考えていった方がいい。ひきこもりの方は、自分では動けないから一緒に行ったりすることを必要とする人達が必要。市町村によっては、事業者が直接受け入れるところもある。しくみをきちんとしておかないと繋がらないかと思う。

事務局)

- ・ アンケートした後どうするのか、集計結果をどうするのかまだ検討段階である。時待ち人の方が、どういったことを求めているのかをつかむことが今回のアンケートの主旨。実際にアンケートした結果に基づいて、参加支援事業のメニューを作り出すというより、アンケート結果を事業者にフィードバックさせてもらい、それぞれの事業所がニーズにあった事業を出してもらいそれを集約したものを市がまとめていく。出来上がったものは、多くの当事者の

ニーズが把握された、事業者側が提供できる一覧表を作りたい。参加支援の引き出しとして使える資源を増やしていき、当事者の方に同じものを共有していきたい。

委員)

- ・ 商工会議所では障がい者の方への支援は行っているが、ひきこもりの方への支援は実在していない。本人の心が開かないとダメだと思う。健康の森で行ったバイオリンコンサートに招待して心を開いてもらったり、家族でブドウの間引きをしたり、受け入れしてもらえるのか確認したことがある。香りや音楽は癒し効果がある。そのような場で交流会をしてみても良いのではないかな。
- ・ 花や良い香りに誘われたり、癒されたり。趣味は何か、何がしたいか、何に興味があるのかを聞いていくのも良いのではないかな。
- ・ スマホやPCに向かう時間が多い人に対して、ワードやエクセルを教えると覚えが早い。30代後半の人でPCでできる動画作成等のスキルやPC講座に参加できる人もいる。
- ・ 興味のあるところから入ることは大切だと思う。
- ・ 誰かの役に立ちたいが、こんな自分ではダメだ死ぬしかないという発想になる人もいる。事業者に丸投げして依頼した時に、参加者が依存する可能性があるのも、事業者を守ることもセットにして企画した方が良いのではないかなと感じた。
- ・ 当事者の意向を把握したいが、まだ準備が整っていない方について、保護者が家に持ち帰った場合、家族内の関係が悪化する可能性はゼロではないので、アンケートを渡せる段階なのかどうかを判断していただいたり、家族の意見として回答を得たりするのも一案。自分が何をしたいか分からない人が多いので、少し外に出ようとする人を対象にしても良いのではないかな。
- ・ 半田市で「働ける居場所」を実施している。障がいの有無関係なし、年齢制限なし、B型作業所で行うような内容を行い、工賃があるとやる気が出る人もいる。課題は居心地が良すぎて卒業しないこと。ボランティアでも工賃等を得られると、外出のきっかけになるのではないかな。
- ・ 働いて、自分のことを認められたという機会になるのではないかな。

(3) 切れ目のない支援体制について (資料No.3)

(事務局から資料に沿って説明)

【意見、質疑応答】

委員)

- ・ エスコートおおぶとして感じている課題がある。中学校卒業後、頼る人が切れた時に居場所を失うことが多いので、エスコートおおぶの対象者枠を拡大したが、2か月経過したものの継続利用に繋がらないという感想がある。断続的でも継続して利用してもらえる人につながるようにしたい。居場所の存在と共に、スタッフを知ってもらえるようレインボーハウスや中学校に出向き連携をしたい。
- ・ 居場所は大事だと思うが、参加すると得られるメリットが必要だと思う。生活リズムが整っていない子たちが、レインボーではなくエスコートおおぶなら行けるのかという点が気になる。三つ葉とは月1回交流し、座談会のようなことを行うこともある。レインボープランではメタバースで授業を受けられるようになっているので、エスコートおおぶを組み込んでい

っても良いのかなと感じる。

- ・ 出席扱いになるという点についても、今後考えていきたい点である。

事務局)

- ・ エスコートおおぶのチラシを配っているが、今後もスムーズに移行できるようにしていきたい。

委員)

- ・ パンフレットを渡しても本人に届かないこともあるので、メディア等を利用して紹介しても良いと思う。
- ・ 高校で不登校になった時に、エスコートおおぶや福祉総合相談室を紹介したりつないだりできるか
- ・ 高校で不登校になった方に別の居場所を提案すると、「高校に来なくて良い」というように受け止められ、見捨てられたと感じられる心配があるので、管理職が保護者と話をするまで、担任が家庭に介入しづらい。

5 情報交換

意見なし

6 事務連絡

事務局)

- ・ 大府市ひきこもり支援機関ガイドの内容確認を依頼。近日中に送付予定。
- ・ 次期子ども・子育て支援事業計画の策定について
- ・ 第2回大府市ひきこもり支援地域協議会は、令和6年11月頃開催予定。